

令和7年度指定管理業務に関する事業報告書（老人福祉センター）

センター名 京都市淀老人福祉センター

1 施設の管理運営

【開所日及び開所時間等】

月曜日～土曜日 午前9時から午後5時

【閉所日】

日曜日、祝日、振替休日、12月29日～1月3日

【管理業務】

- (1) 窓口業務（新規利用者に対する利用案内、事業紹介、各種事業の受付等）
- (2) 施設の維持管理（館内清掃、開館・閉館業務、遺失物・拾得物の管理）
- (3) 消防設備定期点検
- (4) 開所・閉所時の安全点検

【サービス向上のための取組】

- (1) 職員の資質向上のための研修
- (2) 老人福祉センター利用案内（淀老人福祉センターだより）の作成
- (3) 施設・備品の団体利用についての規則を明確化
- (4) 苦情解決体制の整備と苦情事例の活用
- (5) 安全確保のための事故報告書等の事例共有

2 事業実施内容

(1) 教養教室事業

趣味の活動を生かした生きがいがづくりや同世代同士の交流、社会参加のきっかけの場として教養教室事業を実施した。

年度末 10教室

(2) 高齢者自主活動支援事業

高齢者がグループで自主的に取り組み、その活動が円滑に進められるように支援してきた。

年度末 16同好会

(3) 介護予防事業

伏見地域介護予防推進センターと連携し、ファイン体操教室（月1～2回）と介護予防測定会を支援・実施した。

(4) 自由参加事業

ぬり絵サロン

誰でも気軽に参加でき、閉じこもりがちな高齢者が仲間をつくる場所として、月1回実施した。

(5) 世代間交流

11月に淀老人福祉センターと淀児童館合同で「ふれあい広場」を開催し、フラダンスなど一緒に踊ったり、歌ったりして楽しまれた。

(6) 地域福祉団体への支援・連携

老人クラブ連合会、民生児童委員協議会、老人福祉懇談会などの会議や事業の活動場所として、部屋を提供した。

3 サービス提供状況

施設管理兼事業担当者

所長 1名

嘱託 1名

アルバイト 3名（職員休暇時等に依頼）

4 市内中小企業への発注に対する考え方

特殊設備等の保守管理以外は市内中小企業を活用し、見積もり合わせを行い発注する。

5 施設の利用状況(施設の稼働率, 利用者数, 事業参加者数など)

(1) 施設利用者数(延べ人数)

10,259 人

(2) 施設稼働率

100.0 % (開所日数: 292日)

(3) 収支実績

ア 令和7年度収入状況(単位: 円)

委託料	9,854,704
その他	76,400
収入計	9,931,104

イ 令和7年度支出状況(単位: 円)

人件費	6,724,748
事業費	2,390,049
委託費	233,970
小額修繕費	419,650
その他	0
支出計	9,768,417

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

令和7年度は利用者アンケートを実施していないが、講師や世話人等から適宜意見を聞き取った。

(2) 利用者満足度把握の結果

- ・利用者に対する言葉がけが大変丁寧で、わかるまで説明していただける
 - ・センターの衛生観念が行き届いており、いつも清潔がなによりである
 - ・教室の講師の先生の急な休みの時など、センターで連絡網の穴埋めに努力していただけるのでありがたい
- 等のご意見をいただいている。

(3) 意見等への主な対応状況

足の不自由な方からは常々エレベーターの設置の希望を聞く。また、施設を利用されていない方で、階段を使って上へ行けないので施設の利用をやむなくあきらめているといったご意見も聞く。なんとか一人用介護リフトでも設置できないか、京都市に要望していきたい。

7 評価（指定管理者自己評価）

令和7年度も高齢者の方々が健康や老化の防止だけでなく、住み慣れた地域で仲間づくりや社会参加のきっかけづくりの身近な施設になるように、利用者の方々からの意見や希望を聞きながら運営してきた。

廃止となった教室や同好会はなく、5月にコーラスの同好会が新たに活動を開始し、広報紙などを活用して既存の教室・同好会の増員活動を行ったことから施設の延べ利用者数は、令和5年度8,860名、令和6年度は10,092名、令和7年度は10,259名と微増となった。

11月には近隣の児童館と合同で、高齢者と子供達が見るだけでなく一緒に踊るフラダンスなどを楽しむ「ふれあい広場」を開催し、3月には発表会（舞台発表会・作品展示会）を盛大に行い、多くの来所者が鑑賞された。

また、地域の関係機関や団体である老人クラブ連合会、民生児童委員協議会、老人福祉懇談会などの会議や事業の場所として会議室の提供を行い、地域の高齢者の「生きがいづくり」の拠点として、一定の役割を果たした。

収支については、最低賃金の引き上げによる人件費の増や物価の上昇等により物品購入費・水道光熱費などの経費が増加したが、収支のバランスは保つことができた。

施設の利用については、近隣に保育園や児童館があることから世代間交流にも取り組んできた。独居老人をお世話する老人福祉懇談会では、令和8年度も児童や保育園児と「七夕まつり」などの交流を当センターで計画している。また、当センターが計画している世代間交流以外の事業などもあることから従前以上の施設利用者があると見込んでいる。